

■ 教育目的

社会学、社会薬学、倫理学、薬害・医療安全、病院経営、医師・歯科医師・助産師との連携など、幅広いテーマを扱うことで、現代社会における医療者に必要な問題意識・思考力を涵養する。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①～⑥】

■ 学習到達目標

1. 医療者に必要・有用と思われる、人文・社会科学系を含む素養・思考法を身につける(知識)
2. 現代医療における諸問題を把握、問題意識を持ち、自ら考える力を伸ばす(知識、技能、態度)

■ 準備学習（予習・復習）

予習：日頃から医療に関するニュースに関心を持ち、情報収集に努める。(30分)

復習：各講師の指示による。(指定 HP の参照など、30分以上)

■ 授業形態

講義

■ 授業内容

授業内容は人文社会科学の枠にとらわれず、多様な講師から医療安全や医療者としての心得などを学び、学生は毎回レポートを提出する。

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	導入 社会学	本授業の概要と進め方について 社会学的視点から医療を考える	A(1)-①-1～7
2	医療倫理	医療倫理関連事例	A(1)-①-1～7
3	社会薬学	臨床研究(治験)	B(2)-②-3
4	小児医療品評価学	妊婦授乳婦と薬物療法	A(1)-③-1
5	病院薬学(1)	病院とその経営における薬剤師の役割	A(4)-①-5
6	病院薬学(2)	病院とその経営における薬剤師の役割(続き)	A(4)-①-5
7	サリドマイド薬害(1)	サリドマイド薬害体験者との語らい	A(1)-③-6,7
8	サリドマイド薬害(2)	サリドマイド薬害体験者との語らい(続き)	A(1)-③-6,7
9	医療過誤(1)	医療過誤体験談・体験者との語らい	A(1)-①-1,5
10	医療過誤(2)	医師の立場から患者と医療者をつなぐ取り組み	A(1)-③-4
11	歯科診療	患者と歩む「予防+治療型」歯科診療	A(4)-①-2
12	助産学	助産師から薬剤師に伝えたいこと	A(4)-①-2
13	依存症	依存症の正しい理解と支援のあり方	A(1)-①-7、A(2)-③-1
14	DV被害者支援	DV被害者支援と医療従事者の役割	A(3)-①-5,7

■ 授業分担者

高野 麻子(No.1)、川北 晃司(No.2)、廣瀬 誠(No.3)、石川 洋一(No.4)、外部講師(No.5～14)。ただし分担者の担当順、及び授業内容は変更しうる。

■ 課題（レポート、試験等）のフィードバック及び成績評価方法

課題のフィードバック：講義や課題レポートに関する質問等を個別に受けつけ、解説・説明をする。

成績評価方法：各回の課題レポート提出分を合計評価する(レポート100%)。

■ 教科書

教科書は使用しない。講師によりレジュメが提供される場合がある。

■ 参考書

小松楠緒子・川北晃司編著『くすりと社会』北樹出版(2014年)

豊田郁子『増補新版 うそをつかない医療』亜紀書房(2016年)

■ その他

授業は5月～6月の金曜午後に実施予定。詳細は4月以後にメール等でお知らせします。